
名付け屋

並盛りライス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

名付け屋

【Zコード】

Z6959A

【作者名】

並盛りライス

【あらすじ】

全く見ず知らずの他人に名前をつけて観察することで、間接的にその人の人生に関わっていくこうとする私の物語。

私は、基本的に家に居るのが好きだ。

だから、自然と何もしなければ引きこもりになる。

もしも神様が、あるいは家族や世間が許すのなら、私は間違いなく喜び勇んで、引きこもりライフを満喫するだろう。

だが、現実には経済的、健康の面からも不可能である。

私は、今持っている健全な精神と引き替えにしても引きこもりトイとさえ思っている。

なぜならば、人と話すのが好きではないし、自分の部屋のベットが好きだからだ。

私だけではないはずだ、本当はみんな引きこもりたいハズなのだ。

みんな仕方なく、まともな生活をしているのではないかと私は密かに思っている。

しかしながら、私は引きこもりライフを書きたい訳ではない。この

物語は、私が

「とりあえず間接的に人々の生活に関わっていこう」と決意する事から始まる物語だ。

act1・トルストイ

どうしようもなく外に出るのが億劫で、何がなんでも部屋に居たい午後。

私は、自分の家を出た。

三日、ふりの外の太陽は眩しくもなんともなく、鈍よりとした雲で覆われていた。

先行の不安さから、今にも引き返してしまいそうになるのを我慢して街に出掛けた。

とりあえず、街に出る事。そして、間接的でもいいから誰かと出会いう事。

私は取り合はず、どこか落ち着ける場所を求めて歩いた。

最初に見つけたのは、こ洒落たカフェで、いかにもお洒落な若者どもがたむろつていそうな店だった。

同じ若者ならば、と思うのだが住む世界も空氣も違うヤシラとはどうしても馴染めそうになかった。

回れ右をして、流行つてなきそつな店に入った。

変な音楽もなく、賑やかなわけでもなく、店員がしつかりしていたので私はすぐに気に入った。

窓際の席に座つてアイスコーヒーを頼んだ。

何か面白い出会いを求めて、私は此処で何時間も待つ決心をした。

決心をしたのはいいのだが、私より後に入つてくる客は一人も居らず、元々店に居たのは常連らしき一人だけだった。

すぐに、つまらなくなつて家のベットの温かさを思い出したが、文庫本に目だけを伏せて我慢する。

客の一人は、髪の白い老人で物思いに耽りながら何かを書いている。

テーブルに広げられた原稿用紙にペンで書く姿は作家の様だった。

私はその男を
「トルストイ」
と名付けた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6959a/>

名付け屋

2010年10月26日00時03分発行